

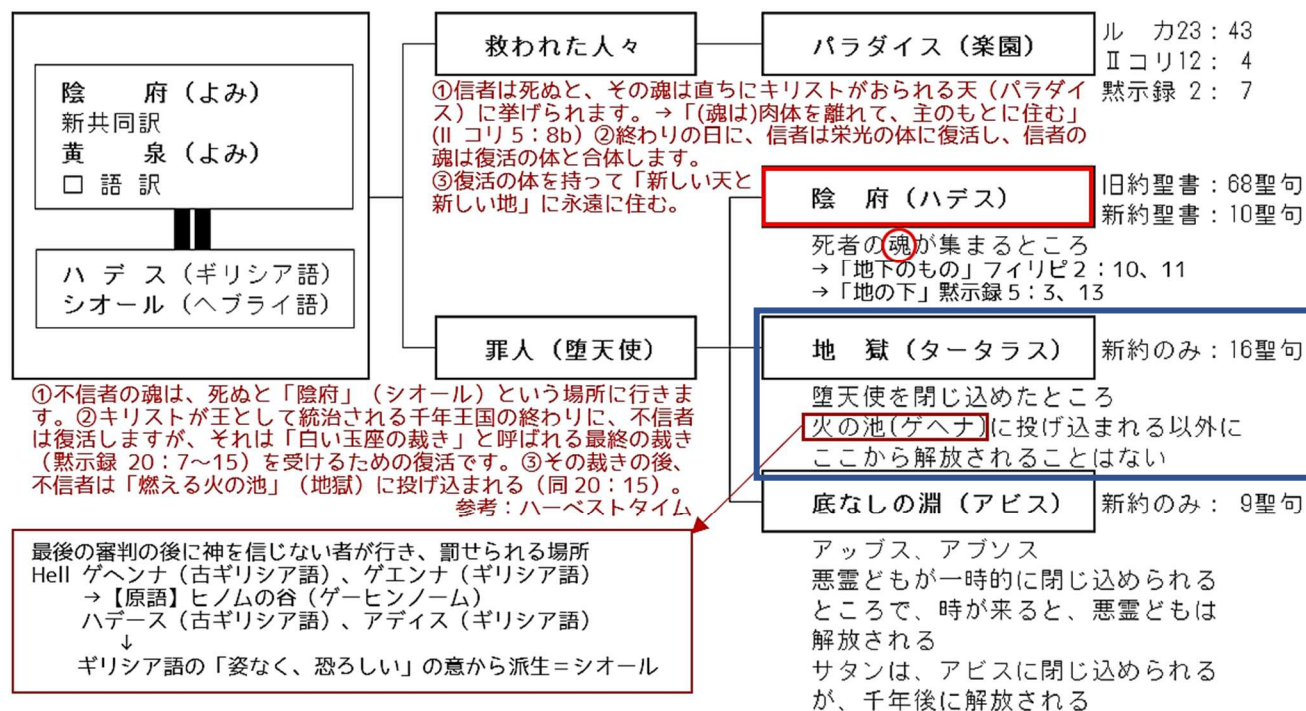
## 054 腹を立ててはいけない他(山上の説教Ⅳ)

マタイによる福音書 5 : 21~48、マタイによる福音書 19 : 9、マルコ 10 : 11~12、ルカ 16 : 18、ルカ 6 : 29~30

### ▶腹を立ててはいけない (マタイによる福音書 5 : 21~26)

21「あなたがたも聞いているとおり、昔の人は『殺すな (→創世記 9 : 6)。人を殺した者は裁きを受ける』 (→出エジプト記 20 : 13、申命記 5 : 17) と命じられている。 22 しかし、わたしは言っておく。兄弟 (→きょうだい：日本聖書協会共同訳、以下同じ) に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける。兄弟に『ばか』 と言う者は、最高法院に引き渡され、『愚か者』 と言う者は、火の地獄 (→青枠内の赤枠) に投げ込まれる。 23 だから、あなたが祭壇に供え物を献げようとし、兄弟が自分に反感を持っているのをそこで思い出したなら、 24 その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし (AD70年のエルサレム神殿崩壊まで、ユダヤ人は神殿で神に犠牲を献げた。争っている人と和解するまで、神に供え物を献げてはいけないと、イエスは人々に語った。)、それから帰って来て、供え物を献げなさい。 25 あなたを訴える人と一緒に道を行く場合、途中で早く和解しなさい。さもないと、その人はあなたを裁判官に引き渡し、裁判官は下役に引き渡し、あなたは牢に投げ込まれるにちがいない。 26 はっきり言っておく。最後のクアドランス (→ローマ青銅貨、1デナリオン銀貨の 1/64) を返すまで、決してそこから出ることはできない。」

### 【参考】陰府等 火の地獄=火の池



ペトロの手紙二 2 : 9

主は、信仰のあついで人を試練から救い出す一方、正しくない者たちを罰し、裁きの日まで閉じ込めておくべきだと考えておられます。

### ▶姦淫してはならない (マタイによる福音書 5 : 27~30)

→「偶像礼拝」は「霊的な姦淫の罪」である。

### ▶離縁してはならない (マタイによる福音書 5 : 31~32)

▶誓ってはならない（マタイによる福音書 5 : 33~37）

33 「また、あなたがたも聞いているとおり、昔の人は、『偽りの誓いを立てるな。主に対して誓ったことは、必ず果たせ』（→レビ記 19 : 12、民数記 30 : 3、申命記 23 : 22）と命じられている。

34 しかし、わたしは言っておく。一切誓いを立ててはならない。天にかけて誓ってはならない。そこは神の玉座である。35 地にかけて誓ってはならない。そこは神の足台である。エルサレムにかけて誓ってはならない。そこは大王の都である。36 また、あなたの頭にかけて誓ってはならない。髪の毛一本すら、あなたは白くも黒くもできないからである。37 あなたがたは、『然り、然り』『否、否』と言いなさい。それ以上のことは、悪い者から出るのである。』

▶復讐してはならない（マタイによる福音書 5 : 38~42）

38 「あなたがたも聞いているとおり、『目には目を、歯には歯を』と命じられている（→同害復讐法／報復法／lex talionis[ラテン語]：ハンムラビ法典、出エジプト記 21 : 24、レビ記 24 : 19、申命記 19 : 21、ローマの信徒への手紙 12 : 19、ヘブライ人への手紙 10 : 30）。

39 しかし、わたしは言っておく。悪人に手向かってはならない。だれかがあなたの右の頬を打つ（→頬を打たれることは、はなはだしい侮辱であった上、右の頬を、手の平ではなく、手の甲で打たれることになり、非常な屈辱であった。）なら、左の頬をも向けなさい。

40 あなたを訴えて下着を取ろうとする者には、上着をも取らせなさい（→夜の寒さには上着は必要なものであるが、そんな大切なものまでも差し出しなさい、とイエスは言っている。）。

41 だれかが、一ミリオン（→ローマ帝国の兵士には、属州民に対して1ミリオン[1000歩]程の距離を、強制的に荷物を運ばせる権利が与えられていた。）行くように強いるなら、一緒に二ミリオン（→約90cm/1歩×2ミリオン[2000歩]≒1.8km）行きなさい（→さらに一層の努力をしなさい。）。

42 求める者には与えなさい。あなたから借りようとする者に、背を向けてはならない。

→ハンムラビ法典：古代バビロニア王国の王ハンムラビがシュメール法を集大成して法制化した282条からなるBC1800年に出来た成文法。

▶敵を愛しなさい（マタイによる福音書 5 : 43~48）

43 「あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている（→レビ記 19 : 8）。

44 しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。

45 あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。

46 自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな報いがあるか。徴税人（→ローマ帝国は税金を徴収するために地元の人々を雇った。これらの徴税人はローマ帝国に支払う以上の税を取り立て、生業とした。ユダヤ人の徴税人たちは同胞から嫌悪され、自らの国や宗教を裏切る者と見なされた。）でも、同じことをしているではないか。

47 自分の兄弟にだけ挨拶したところで、どんな優れたことをしたことになるか。異邦人でさえ、同じことをしているではないか。

48 だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。

→雨で花が倒れそうになるように、人生の無情の嵐に襲われて、その大きな力にくじけ、負けそうになったとき、雨が花に必要なように、「嵐」は私たちの敵ではない。神が嵐をお赦しになったのは、私たちを強くするために必要だからである。神は、雨で私たちの外側を打たれるが、私たちの内面を強くされるのである。だから、雨が花に必要なように、私たちも「雨」でまっすぐに立ち上がることができるのである。